

麻布幼稚園だより 10月号

平成28年9月30日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

「親の役割 ～「子育ての視線は？」」

園長 大島 美知代

10月になると、平成28年度の教育活動の半分（いわゆる前期）が終わり、教育活動の後半の始まりとなります。あと残りの半年の指導を充実して子どもたちの力を伸ばしていきたいと思います。

園児は体も心も日々成長しています。後半戦というと、年長組はあと半年で就学を迎えるということです。年中組も年少組も入園、進級時とは比べられないほどしっかりしてきました。自分のことは自分でできるようになってきたし、先生や友達と一緒に活動を楽しんでいる様子も見られます。

昨年度私は麻布小学校PTAの講演会として、菅原裕子氏の「子育てに関する講演会」に出席させていただきました。私は子どもたちの指導もあと半年だと思った時、この講演会のことを思い出しました。

菅原先生は「子育てで目指すのは、子どもの自立」だということをお話してくださいました。赤ちゃんから乳児の時は「できない子を完全に保護する『保護者』」である。この時期にはたくさん声をかけて、たくさん抱いて、たくさん相手にすることが大切。よく相手にされた子どもは安定した情緒が育つ。それでスキンシップがとても大切である」と。「ただし、子どもの成長にしたがって、親は『保護者』から『親』になる。いつまでも「保護者」でばかりいてはならない」と菅原先生はおっしゃいました。

我が子が心配であるあまり、また、親の言うことを聞くいい子に育てたいあまり、「今、我が子は安全か、今、親の思う通りにふるまっているか、今、子どもは親の望む通りに行動しているか」等、子育ての視線は「今の安全と秩序ばかり」に関心が強くなります。もちろん、「今の安全」はとても大切です。しかし「今の安全と秩序」に焦点を当てすぎると、もしかすると子どもは安全や秩序に関して親の言葉待ちになってしまうことにならないでしょうか。「子育てをする時、私たちが目指すべきは子どもの未来」だと菅原先生とおっしゃっていました。

数日前、麻布幼稚園から小学校1年生に進学した保護者の方にお話を聞く機会がありました。「幼稚園の時に何を一番しておくといいでしょうか？ご家庭でも、幼稚園でも。」と尋ねると、「それは時間かな？」とおっしゃいました。「自分で決めた時間に起きるようにさせること。いつもお母さんが起こしていて、遅刻をするとそれはお母さんのせいになっちゃう。お母さんのせいで遅れて、お母さんのせいで忘れ物して、と言うことになるし…」と。また、「決めた時間内で支度をしたり、その時間にトイレに行ったりできると、小学校では困らないと思う。小学校では休み時間に次の勉強の準備をしたり、5分休みにトイレに行ったりするらしい。」とも話してくださいました。

就学に向けて、また進級に向けて『親』として考えることはありそうです。幼稚園も幼児が体験する初めての学校として初めての社会生活として様々指導することがあります。幼稚園も『親』の皆様と手を携えて「子どもの『今』を超えて、子育ての視線を子どもの『未来』に向けて」指導していきたいと思ひます。

今年度の園内研究会・アカデミー研究会の紹介

- 10月6日に年中組が研究保育を行います。年中組がますます体を動かすことが好きになり、楽しい運動遊びを体験して心も体もたくましくなるよう、講師のご指導を受けます。
- 9月23日（金）には「六本木アカデミー」研修会で中学生の授業見学をしました。中学校でも生徒が主体的に学習できるよう、話をよく聞いて自分が意欲的に取り組めるよう、授業を行っていました。本園では、11月に保育を公開して、幼児期の教育の重要性を発信したいと考えています。